

## 「明治女礼式浮世絵」の研究

### The Study of “Meiji Joreishiki Ukiyoe”

学籍番号：201421612

氏名：山本 祥子

Shoko YAMAMOTO

1872年の学制公布後、小笠原清務らの積極的活動によって女子のための礼法教育の必要性が提唱されるようになり、女礼式は学校教育・家庭教育の場を通して普及した。当時の教育熱を反映し、教材として多様な形態のメディアが出版されており、その一部は現在にも伝えられている。歴史研究においてこうした出版物は非常に有用な資料であり、その収集と調査は研究活動に欠かせないものである。しかし、これまでの近代礼法史研究で扱われているものはテキスト主体の資料が主であり、ビジュアル主体の出版物を広く扱った研究は見当たらない。

本研究の目的は、明治期に女子に礼法を伝えたビジュアル主体メディアの一群である明治女礼式浮世絵の特徴を明らかにすることである。筆者は綿抜研究室所蔵の絵双六10種13点、画帖9種14点、筑波大学附属図書館所蔵の絵双六1種1点、続絵13種13点の計33種39点、国立国会図書館所蔵の続絵7種7点を調査対象として、各資料の書誌事項の調査および本文の翻刻を行うとともに、各資料に収録された図版を分類・整理し、主題の出現数を調査した。分類には「小学女礼式第一」の項目を参考にし、主題の出現数の比較から、明治女礼式浮世絵が「小学女礼式第一」から受けた影響を明らかにすることを試みた。

調査の結果、資料形態の別に関わらず明治女礼式浮世絵では「小学女礼式第一」の影響を受けた女礼式に関する項目と合わせて趣味・教養に関する主題が中心的に取り上げられており、特に人気のある諸芸については個別の女礼式に関する主題よりも多く描かれていたことがわかった。このことから「小学女礼式第一」の影響を受けながらも、鑑賞者である若年層の女子の実生活や興味をふまえて取りあげる主題の取捨選択がなされていたことが示唆された。また、当時の高等女学校の教育課程において教授されていた科目との関連から、明治女礼式浮世絵では幅広く徳育を扱った主題が取りあげられており、当時理想とされていた婦徳を視覚的に女子に伝えていたことが推察された。

今後は、調査対象資料の範囲を拡張するとともに、資料形態に関わらず図版の主題ごとに横断的な検索を行えるデータベースの整備を進め、本研究の結果を補強したい。

研究指導教員：綿抜 豊昭

副研究指導教員：松本 浩一